

# 日韓の日本語教科書における普通体基調会話の扱い —普通体基調会話の教育方法開発に向けて—<sup>1</sup>

石 川 朋 子  
(国際教育交流センター)

## キーワード

普通体基調会話、日本で出版された日本語教科書、韓国で出版された日本語教科書、  
普通体基調会話の教育

## 要旨

本稿は、普通体基調会話教育の現状把握を目的として、日本で出版された10冊の日本語教科書と韓国で出版された19冊の日本語教科書の分析結果を報告するものである。分析の結果、日本の教科書の方が普通体基調会話をより多く提示していることが分かった。また、「男女差・年齢差を表す表現に関する問題」及び「文末スタイルの選択に関する問題」が両国の日本語教科書の普通体基調会話に共通して観察される問題であることが明らかになった。現行の教科書を見る限り、普通体基調会話は断片的に扱われているに過ぎず、日本語教育においては、普通体基調会話を体系的に学習者に示す必要がある。

## 1. はじめに

本稿は、日本と韓国で出版された日本語教科書の分析を通じ、普通体基調会話教育の現状把握を目的とするものであり、普通体基調会話の教育方法開発のための基礎研究の一部を成す。本稿において「普通体基調会話」とは、非公式な場で普通体を基調として行われる会話と定義する。

海外の日本語教科書として韓国の教科書を分析対象とした理由は、それを使って日本語を学ぶ韓国人学習者に普通体基調会話の学習を志向する傾向が強いからである。韓国語には「同年輩や、年下あるいは年齢に近いもの同士のあいだで使う親しさを表す表現（長友・荻野

2005：49)」、あるいは、「友達同士のくだけた言い方の代表的なもの（韓国語ジャーナル編集部2007：109）」としてパンマルと呼ばれる非敬体が存在する。非公式な場においてパンマルが使える相手にはそれを使用するのが一般的であり、パンマルが使えるにも関わらず敬体を使った場合は親しみを表すことができない。韓国人学習者が普通体基調の日本語の学習に関心を示すことの多い背景には、こうした母語の影響があると考えられる。母語で行っているパンマル使用にまつわる言語的習慣の影響を受け、日本語においても、友人と話す際は非敬体を使いたいと欲するものと推測される。

日本語では、年齢も社会的身分も同等で親しい関係にある者同士が非公式な場で話す場合、基本的に普通体が使用される。日本語教育では導入時には丁寧体基調の会話が用いられるのが一般的であるが、学習が進むにつれて、日本語学習者（以下、学習者）は日本語母語話者（以下、母語話者）の同僚や友人との人間関係を深めるため、普通体基調の日本語を使って話したいという希望を持つようになる。しかし、王（2008：107）が「普通体基調の会話では文末におけるレベルやジェンダー、方言か標準語かなどについて何らかの選択をしなければならず、学習者にとっては丁寧体の会話よりも難しい」と指摘しているように、普通体基調の会話には、丁寧体基調の会話以上に困難を感じると訴える学習者が少なくない。この背景には、従来の日本語教育では、普通体基調会話の運用技能は丁寧体基調会話の運用技能に比べれば重要度が低いと考えられてきたため、普通体基調会話の行い方についての研究も教授法の開発も殆ど行われていないという事情がある（因・王 2007）。

普通体基調会話ではざっくりばらんで直接的な表現が行われていると思われがちであるが、人間関係の調整を目的とした様々な技術が必要であることを示す報告がある。例えば梶原（2003）は、日本人学生が学習者の話し方について「直接的な表現や自己主張が強くて少し怖い」と述べたと報告している。こうした事例において、実際に学習者が性格的に自己主張の強いタイプの人であった可能性も皆無ではないが、それよりも、母語話者なら緩和された表現や婉曲な表現を選択する場面で学習者が直接的な表現を行ったために、話者本人が意図した以上に「はっきりにしている」という印象を与えてしまう可能性が高いのではないだろうか。こうした行き違いは、認知的な意味の把握には関係がないため訂正される機会も少ないと考えられ、細かい誤解や問題が積み重なっていけば、両者の人間関係に悪影響を及ぼすことにもなりかねないと危惧される。

学習者の中でも、特に同世代の母語話者と友人関係を深めたいという希望の強い若年層の学習者に対し、普通体基調会話の方法を提示する必要性は高いと考えられる。「日本語学習者の多くは母語話者のようなコミュニケーション能力を身につけることはできないし、またその必要もない」（尾崎2003：82）という意見もあるが、少なくとも、母語話者が普通体基調会話を

どのように行っているのか、また、母語話者と異なる話し方をした場合にどのようなリスクが生じるのかを学習者に知らせておくことは必要であろう。

## 2. 日韓の日本語教科書における普通体基調会話に関する記述

本稿で分析対象となる日韓の日本語教科書における普通体基調会話の提示量を(1)に示す。1～10は日本で、11～29は韓国で出版されたものである。日本で出版された教科書については、日本語教材リスト編集委員会（2013）を参考に、サバイバルを超える会話能力の育成を目標としている中級レベル以上の教科書を選定した。これらはいずれも広く使用されており、学習者が手にする可能性が高いと考えられる。韓国で出版された教科書については、纓坂（2007）や吉岡（2008）を参考に、成人向けとして使われていて会話能力の育成を重視しているものを抽出した。

(1) 分析対象の教科書における普通体基調会話の提示量（出版年順）

		書名（出版年）	普通体基調会話の提示 のある課数／全課数
日 本 の 教 科 書	1	日本語会話中級 I（1993）	6/6
	2	ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話（2000）	6/7
	3	日本語文法演習 話し手の気持ちを表す表現 —モダリティ・終助詞—（2003）	11/11
	4	聞いて覚える話し方 日本語生中継・中～上級編（2004）	8/8
	5	新装版なめらか日本語CDつき（2005）	22/23
	6	日本語上級話者への道 きちんと伝える技術と表現（2005）	0/12
	7	日本語中級からのスキルバランス ワークブック（2005）	14/35
	8	日本語超級話者へのかけはし きちんと伝える技術と表現（2007）	2/12
	9	<i>AN INTEGRATED APPROACH TO INTERMEDIATE JAPANESE (Revised Edition)</i> （2008）	13/15
	10	にほんご会話上手！聞き上手・話し上手になるコミュニケーション のコツ15（2012）	15/15

日韓の日本語教科書における普通体基調会話の扱い

韓 国 の 教 科 書	11	日本語会話 (1998)	1/30
	12	ふれあい日本語① (2000)	6/7
	13	日本語よ 遊ぼう! (2001)	0/15
	14	ふれあい日本語② (2001)	6/7
	15	ふれあい日本語③ (2002)	3/10
	16	初級現代日本語 (2003)	2/50
	17	日本語バンク日本語会話入門 (2004)	0/36
	18	KUJAPシリーズ日本語 (2005)	4/30
	19	初級日本語会話練習Ⅰ (2007)	0/14
	20	初級日本語会話練習Ⅱ (2007)	1/13
	21	中級日本語会話 (2007)	26/26
	22	日本語むやみにまねしよう (2008)	29/50
	23	ニュー日本語バンクフリートーキング BASIC (2008)	6/20
	24	ニュー日本語バンクフリートーキング STYLE 1 (2008)	0/18
	25	ニュー日本語バンクフリートーキング STYLE 2 (2008)	0/18
	26	ニューバンク日本語STEP2 (2008)	0/18
	27	ニューバンク日本語初級 1 (2009)	0/20
	28	ニューバンク日本語中級 1 (2009)	0/20
	29	ニューバンク日本語中級 2 (2009)	0/20

日本で出版された教科書では、6.『日本語上級話者への道 きちんと伝える技術と表現』、7.『日本語中級からのスキルバランス ワークブック』、8.『日本語超級話者へのかけはし きちんと伝える技術と表現』以外で、普通体基調会話がほぼ全課にわたって取り上げられていることが分かる。韓国で出版された教科書は、全体的に普通体基調会話の提示量は少ない。その中で12.『ふれあい日本語①』、14.『ふれあい日本語②』、21.『中級日本語会話』、22.『日本語むやみにまねしよう』では積極的に普通体基調会話を扱う姿勢が見られる。

以下、分析対象となる日韓の日本語教科書における普通体基調会話に関する記述を概観する。なお、以下では普通体基調会話、及び、丁寧体による会話中に独り言などの普通体が混じるような会話の提示が全く含まれていない13、17、19、24～29の教科書は検討の対象から外す。

1.『日本語会話中級Ⅰ』は、初級文法を勉強した人が、それを使いこなして話せるようになるためのテキストである (p.i)。「話し相手によって、ことばのレベルを変えることができますか」(p.3)と学習者の注意を促した上で普通体基調会話が多く提示されているが、普通体基調会話に関する説明も練習も少なく、「くだけた形は「～です／ます」のつかない形です。親しい人と話すとき使います」(p.6)という記述と、丁寧体を普通体に変換する練習 (p.5)

及びくだけた形の練習 (pp. 6 - 7) があるのみである。次のような普通体基調会話における丁寧体の使用には「相手を心理的に突き放す」という効果があるが、このことへの言及はない。

(2)

妻：夕ごはん、家で食べるって言ったじゃない。

夫：ごめん。急に課長に誘われちゃって。

妻：ずっと食べないで待ってたのよ。

夫：ごめん！じゃ、お茶、飲もうよ。ね、ぼくお湯わかすから。

妻：もう、わいてます。

夫：あ、そう。じゃ、ぼくお茶入れるよ。紅茶がいい？日本茶？

妻：もう入ってます。 (pp.116-117 下線は筆者。以下同様)

2. 『ロールプレイで学ぶ 中級から上級への日本語会話』は「初級の学習を終え、簡単な日常会話ができるようになった学習者のために作られた、会話練習用のテキスト」(p. 5) でタスク先行型のロールプレイを通して会話能力の向上を目指すものである。この教科書には、普通体基調会話が友人同士の会話として多く提示されているが、普通体基調会話の特性への言及は一切ない。例えば、普通体基調会話の殆どが男性的でもなく女性的でもない中立的な表現で提示されている中で、「～てみるのもいいかもしれないわね」(p.88) といった女性的表現や「ほかの人がいると、気になって、勉強できないんだよ」(別冊 p. 9) といった男性的表現も見られるのだが、これらの男女差に関する説明はない。

3. 『日本語文法演習 話し手の気持ちを表す表現—モダリティ・終助詞—』は、書名が示す通り、モダリティと終助詞に関する文法演習に主眼を置いた教科書であるが、日常会話で使う形式の学習も本書の目的に含まれている (p. iv)。モダリティ・終助詞は、普通体基調会話にも大きく関わる問題であるが、本書は、提示された質問に答えることを通じてモダリティや終助詞のルールが整理できるように構成されている。終助詞に関しては、男女使用比率を図示したり (p.45)、ある発話が男女どちらによるものかを繰り返し質問したりして、その男女差を積極的に取り上げている。ただ、語彙の選択に現れる男女差については言及されておらず、例えば以下の「うん、うまいね」や「君、おにぎり4つも食ったの？」に見られる「うまい／君／食う」といった、通常男性的とされる語彙に関する説明はない。

(3)

女性：このカレー、私が作ったの。おいしいでしょ。(下降調↓)

男性：うん、うまいね。 (p.51)

男性1：君、おにぎり4つも食ったの？

男性2：うん、俺、よく食べる { だろ・じゃない } ↓。 (p.61)

4. 『聞いて覚える話し方 日本語生中継・中～上級編』は、対象となる学習者を、「1）基本的な日常の出来事については日本語で用を足すことができるが、自分の感情や意見を詳しく説明したり、相手によって話し方をうまくコントロールしたりすることができない中級以上の日本語学習者、2）日本語に関する知識は豊富だが、日本社会で使われているような自然な日本語（特に、くだけた表現）に慣れていない上級レベルの日本語学習者」(p. 4) に設定している。また、このテキストの特徴の一つとして、「多様な人間関係と状況を設定したスキットを聞き取ることによって、人間関係や話の場、話す内容によって、用いられる表現や話の内容が異なることを理解し、ポライトネスを意識化（人間関係や場面に応じた表現の使い分け）させ」(p. 3) ることが挙げられている。こうした方針から、この教科書では全体を通して丁寧体基調会話と普通体基調会話が並行して提示されており、こうした措置は普通体基調会話に不慣れた学習者に有益な情報を与えると考えられる。ただ、普通体基調会話に関しては、提示するだけにとどまり、普通体基調会話に特徴的な形式や音声、省略等についての説明は見られない。また、文句を言う場面で「日本語では、親しい間柄を除いては、相手に直接的に文句を言うことは少ないです」(p.63) という記述があるが、これだと“それなら、親しい間柄なら直接的に言ってもいいのだ”と学習者が誤解する恐れもある。さらに、依頼を断るときに、「できません」、「したくないです」と言うのは失礼かという質問に対して、「とても親しい相手にカジュアルな場面では大丈夫なこともあります、そのような言い方をすると失礼に聞こえる場合があります」(p.55) という回答があるが、たとえ親しい相手にカジュアルな場面でも「できない」、「したくない」ときっぱりと依頼を断ることは、「断り」以外の話者の意図を類推させる技巧的な使用の場合を除いて、かなり攻撃的な印象を与えるため、このようにきっぱりと断ることができる相手・場面は限られるのではないと思われる。

初級文法の習得を終えた学習者及びそれ以上の段階の学習者を主な対象とする5. 『新装版なめらか日本語CDつき』は、話し言葉を学びたいという学習者のために、普段耳にする何気ない会話をスケッチして描き、それらを理解するために必要とされる最低限のルールを説明したものである (p. 3)。本書は3部に分かれており、PART 1では「てる、ちゃ、たって」といった話し言葉に特徴的な音の変化を、PART 2では「助詞の省略、短縮句、語順の変化」といった話し言葉の形態上の特徴を、PART 3では「話を切り出す、お礼を言う、申し出を断る」と

いった会話の機能とその表現方法を学習する。また、普通体基調会話では、性や年齢によって違った言葉を用いることが多いとして対話に登場する人物の性と年齢を次のように区別している (pp. 5 - 6)。

(4)

A／B 男性、女性の区別なし

男A／B 一般の男性

男C／D 中年以上の男性

女A／B 一般の女性

女C／D 中年以上の女性

話者の性や年齢が現れやすい普通体基調会話を提示する際にそれらを明示することは意味のあることだが、上記の区別には問題が存在する。まず、「一般」という区分が具体的にどういった人を指すのか明確ではなく、そのため「中年以上」との違いもはっきりしない。また、提示される会話例を見ると、1) 性差や年齢差は認められない発話であるにも関わらず話者の性／年齢が記されていたり、2) 話者が中年以上と推定されるのにその旨が記されていないかたりして、学習者に誤った情報を与えかねないものも多い。例を挙げる。

(5)

1) 性差や年齢差が認められない発話であるが、話者の性／年齢が記されている例

男A「山田課長、中国へ転勤するんだって聞いたよ」

男B「へえ、単身赴任かな」

男A「いや、ご家族もいっしょに行かれるんだって。4、5年って話だよ」 (p.29)

2) 話者が中年以上と推定されるのにその旨が記されていない例

男A「さがしてた書類、見つかったのかい」

男B「それが、どこを探したって見つからないんだ」 (p.26)

男女差や年齢差以外にも、検討が必要ではないかと思われる記述が散見される。例えば、次の(6)に、洗濯機の使い方を忘れた祖母に向かって孫が「教えただろ」と言う場面があるが、この発話はかなり乱暴なのではないだろうか。祖母に対して攻撃的意図があるならこのままでも許容されるが、当該の会話例からはそうした意図は読み取れない。

(6)

祖母「えーっと。この洗濯機、どうやって使うんだったかね？」  
 孫 「おばあちゃん。この前、教えただろ」  
 祖母「年をとると忘れっぽくなっちゃって…。聞いても聞いてもすぐ忘れるんだよ」  
 孫 「このスイッチ押すだけさ。簡単だよ」 (p.61)

また、「わかんない、つまんない等」は主に子どもや若い女性が使う (p.35)、「こりゃ、考  
 えりゃ等」は主に中年以上の男性が使う (p.40) といった説明があるが、いずれもそれ以外の  
 属性を持つ話者も使用可能であり、実情とは異なる記述がなされていると言わざるを得ない。

6.『日本語上級話者への道 きちんと伝える技術と表現』と8.『日本語超級話者へのかけ  
 はし きちんと伝える技術と表現』は、ACTFL-OPI (全米外国語教育協会、口頭能力インタ  
 ビュー試験) の言語運用能力基準を参考に、上級／超級話者になるために必要な能力の習得を  
 目指すものである。情報を伝えるという働きとは異なるコミュニケーションの側面、つまり人  
 間関係を育て維持していくことにも注目するということが、両教科書の理念のひとつとして挙  
 げられている。6.『日本語上級話者への道 きちんと伝える技術と表現』では、普通体基調  
 会話は扱われておらず、普通体基調会話に関するものとしては相づちと呼称、終助詞に関す  
 る設問が2問あるだけである (p.76, p.82)。8.『日本語超級話者へのかけはし きちんと伝  
 える技術と表現』には、第2課と第4課を中心に“インフォーマルな表現”が見られる。イン  
 フォーマルな表現は機械的に敬体を常体に変えればよいということではないという指摘、及  
 び、フォーマルな表現をインフォーマルな表現に変える際に学習者が間違いやすい現象の指摘  
 が明示的になされている点 (p.23) は評価できる。しかし、次の表にあるように、「みなさん、  
 聞いてください」というフォーマルな表現に対応するインフォーマルな表現を、「だれでも使  
 える：みんな、ちょっと聞いて」、「男性的：みんな、ちょっと聞いてくれ」、「女性的：みんな、  
 ちょっと聞いてね」と特徴付けることには問題があるのではないだろうか。

(7)

フォーマルな表現	インフォーマルな表現		
	だれでも使える	男性的	女性的
みなさん、聞いてく ださい。	みんな、ちょっと聞 いて。	みんな、ちょっと聞 いてくれ。	みんな、ちょっと聞 いてね。

(p.23)

まず、「聞いてね」は男性も使用可能であるが、ここでは女性的と紹介されている。次に、「聞



いてくれ」は命令形であるため、上位者から下位者への発話というニュアンスが生じやすい。また、「聞いてね」は終助詞「ね」の付加によって同意を求める意が加わり、聞いていない相手に向かって「聞いて」と念押しする感じが出る。しかし、こうしたことに関する説明はない。インフォーマルな発話がなされる場面の設定に疑問を感じる例も見受けられる。「『異文化理解講座』で、日本の小学生に、自分の国の伝統行事について紹介する例 (p.22)」が挙げられているのだが、その発話はインフォーマルな形式でなされている。しかし「異文化理解講座」という公的な意味合いの強い場での発話の場合は、相手が小学生の場合でも、フォーマルな表現を使うことが多いのではないと思われる。

7.『日本語中級からのスキルバランス ワークブック』では、会話に関係する勉強として、「自然な話しことばのスタイルの勉強」と「いろいろな人の実際の話し方の勉強」が用意されている。前者では、男女の話し方の違いやことばの順序、省略、音の変化といった会話の特徴などを扱っている。後者では、男の人、女の人、年をとった人、若い人、子どもなどの発話を取り上げている (p. iii)。このうち後者は、ほぼ全てが丁寧体による会話であるため、文体から男女差や年齢差といった話者の属性を判断することは難しい。前者の「自然な話しことばのスタイルの勉強」では、男性話者と女性話者による同内容の短い会話が丁寧体と普通体で提示される。さらに普通体による会話には、男性と女性のターンを逆にした2種の会話が用意されている。提示される会話に沿ったタスクには丁寧体を普通体に変換させる練習が多く、そこでは積極的に男女差が取り入れられている。「難しい問題だね／毎日けんかするよ」といった発話は「男の人の話し方」として紹介されているが、これらは女性が使用しても問題ないと思われる。また、「女の人の話し方」として提示されているものの中には「困ったわね」や「謝りなさいよ」のように最近の若年層の女性は日常的には殆ど使わないと考えられるものも多く含まれているが、こうした現状には触れられていない。

中級レベルの学生の聞く、話す、読む、書くの四技能を並行的に伸ばすことを目的とした 9. *AN INTEGRATED APPROACH TO INTERMEDIATE JAPANESE (Revised Edition)* では、「デス・マス体」のほか、「ダ体」や敬語など種々のスタイルを用いた会話が取り入れられている (p. vii)。改訂前は男女差の際立つ会話が多かったが、改定後は「大学生の発話は、なるべく今の若者の発話に近くするように気をつけた。特に、文末表現は、女性的／男性的な表現を避け、中立的な表現にしよう努めた」(p. vi) とあるように、男女差はあまり見られなくなった。男性的／女性的な文末表現については、伝統的に日本語には男性的／女性的な話し方があり、こうした区別は主にカジュアルな会話に観察されるが、男性的／女性的な文末表現は変化の過程にあると説明し、それらを以下のように分類している (pp.33-34)。

(8)

Strongly masculine : ぞ (行くぞ)、ぜ (行くぜ)、かい? (行くかい?)、～ないか (行かないか?)、imperative (plain form) (行けよ、食べろよ)

Moderately masculine : (plain form) よ (行くよ、高いよ)、だよ/だね/だよね (あしただよ、今日だよね)

Moderately feminine : (plain form) の (行くの、高いの)

Strongly feminine : わ/わよ/わね/わよね (行くわ、日本人だわ、あるわよ)、  
[Noun/な-adjective]なの (日本人なの、きれいなもの)、かしら (行くかしら)

このうち Strongly masculine と Strongly feminine の終助詞の使用は減少傾向にあり、若い男女はこれらを殆ど使わないと解説されている。また、現代の女性はカジュアルな会話で Moderately masculine の終助詞を用いるため、終助詞における男女差はあまりみられなくなっているが、年配の女性はまだ Strongly feminine の終助詞を使うという説明も見られる。このように、この教科書では文末における男女差に関して詳しい説明が施されており、学習者に有益な情報を与えている。一方、「腹へった」といった通常男性的とされる語彙や「そういう人を早く見つけなさいよ」のように上位者から下位者への発話に特徴的な表現の使用が所々に見られるが、これらに関する説明はなされていない。

10. 『にほんご会話上手! 聞き上手・話上手になるコミュニケーションのコツ15』は、会話分析の研究成果に依拠して作成されたものである (p.10)。上手な会話を、「自分が話すだけでなく、相手の話をよく聞いて、それに対して適切な返事をしながら話を進める」(p. 4) のものと定義し、上手に会話を進めるためのコツを「話を始める」、「話を変える」といった機能別に紹介している。大学生同士の普通体基調会話を多く扱っているため、普通体基調会話を習得したい学習者にとって利用価値が高いと考えられる。「話しことばの特徴」を簡潔にまとめている点も評価できる。しかし、「男ことばと女ことばの使い分けは難しいので、自分で使うときは、相手の話し方や、相手との親しさ、会話の場面などに注意しましょう」(p.22) という説明は不親切だと感じる。注意せよと言われてもどのように注意すればいいかわからない学習者も多いであろう。どのような「注意」が必要なのかを具体例と共に示す配慮が必要だと思われる。

ここまでは日本で出版された教科書を概観した。次は、韓国で出版された教科書の分析を行う。

日本語の会話を初めて勉強する人のために開発された11. 『日本語会話』には普通体による会話は一箇所だけ、カルチャーセンターの「講師」の発話に観察されるのみである。この講師

は、主に中年以上の男性が使う「君」や年配の人が使う「そうかい」といった表現を用いているが、こうした語彙や表現に関する説明はない。

(9)

講師：君は韓国の楽器、はじめて？

太田：はい、はじめてです。いろいろあるんですね。

講師：せっかくだから、ゆっくり見て行きなさい。

太田：ありがとうございます。あれは何という楽器ですか。

講師：あれはテグムといって、笛の一種だよ。

太田：大きい笛ですね。

講師：君は何か楽器を習ったことはあるの？

太田：いいえ、ありません。

講師：そうかい…。

太田：ちょっと、一度どんな音が聞かせて欲しいんですが…。

講師：いいとも。じゃ、そのイスにでも座りなさい。

太田：ありがとうございます。 (p.109)

上例にも「～なさい」という発話があるが、丁寧体を普通体に変換させるドリルの中にも「～てください」を「～なさい」に変換させるものがある (p.111)。「～なさい」は上位者から下位者に対する命令であり、命令形による命令に比して和らいだ表現であるとはいえ、普通体が使え相手に無条件に使えるものではないことは記されていない。「～なさい」に関する同様の問題は20.『初級日本語会話練習Ⅱ』にも見られる (p.49)。

12.『ふれあい日本語①』及び14.『ふれあい日本語②』は、10代後半から20代の初級学習者を対象として作成された教科書である。全体を通じて普通体基調会話を積極的に採用しており、1課の「毎日のあいさつ」から丁寧体と普通体が比較できる形で提示されている。しかし、普通体会話に特徴的な現象に関する説明は一切ない。同シリーズの15.『ふれあい日本語③』は、学生及び青年学習者が実際に日本を訪れた際のサバイバル的な会話を紹介しているためか、普通体基調会話を殆ど扱っていない。

16.『初級現代日本語』には、普通体を用いた会話例として、女性同士の会話と男性同士の会話の一つずつ紹介されている。話し言葉に関する言及としては「「みたいだ」は「ようだ、らしい」と同じ意味の会話の表現である」(p.125)という説明があるだけで、それ以外の言及は見当たらない。

日本語を初めて勉強する学生向けに作成された18.『KUJAPシリーズ日本語』には、提示される会話について、「登場人物の人間関係や発話の場面と会話のスタイルが関連していることを理解できるよう提示した」(p. 6) とある。しかし、登場人物の性別に関してはあまり配慮がなされていないように思える。というのも、各会話の登場人物の性別が明記されておらず、第1課の自己紹介の際に現れる「イー・ジョンファ、山田陽子」といった名前からその性別を判断するしかなく、自己紹介の場面に登場しない人物に関しては、「パク、橋本」のように姓しか提示されておらず、挿絵からしかその性別が判断できないからである<sup>2</sup>。この教科書の会話の殆どが中立的表現でなされているため、話者の性別を表記する必要はないという判断があるのかもしれないが、減少傾向にあるとはいえ男女差が認められる日本語の会話、特に普通体基調会話を扱う上では、話者の性別を明記すべきではないだろうか。この教科書では、普通体による会話は全30課中4つの課に現れるが、普通体に関しては「普通体：一般的な会話体」(p.122) という説明しかなく、普通体の会話に現れる文体の男女差や縮約表現といった現象には一切触れられていない。

20.『初級日本語会話練習Ⅱ』で取り上げられている会話は殆ど丁寧体であるが、一箇所だけ同内容の会話が丁寧体と普通体で示されているところがある。また、同内容の普通体の会話が、話者が男性同士の場合と女性同士の場合に分けて提示されている例もひとつある。これらの普通体の会話には、男性的／女性的表現が見られるのだが、それらへの言及はない。

21.『中級日本語会話』では普通体基調会話が多く取り上げられているが、普通体基調会話にまつわる現象への言及は殆ど見当たらず、「[女性らしい言葉]とは、どんな言葉づかいでしょうか」(p.60) という問いがあるのみである。この教科書では、登場人物の韓国人男性の留学生がアルバイト先の日本人女性社員と恋人同士になった後も、彼女に対して私的な場面においても丁寧体で話しかけているのだが、交際関係にあっても丁寧体で話し続けるということは現在の若者としては非常に珍しいことなのではないかと思われる。以下にこの二人の会話を見る。

(10) 徳恩は韓国人男性、上田は日本人女性。二人は恋人同士。徳恩が学園祭で模擬店を出すことになり、どんな店にすればいいか上田に相談している。

上田 チャジャン麺って例の黒いやつね。それ、案外いけるかもよ。

徳恩 だけど、麺やソースをどこで仕入れたらいいの。

上田 チャジャン麺を出す韓国系の中韓料理屋を知ってるの。そこに話をつけてみようか。

徳恩 話に乗ってくれますかね。

上田 うちは小とはいえ雑誌社よ。雑誌の記事にするから宣伝にもなるっていえば、きっと手伝ってくれるわよ。

徳恩 上田さんって、案外と策士なんですね。

上田 あら、ずいぶん高級な日本語をご存じなのね。

徳恩 いえいえ。これも上田さんのおかげですよ。 (p.55)

上の会話例には、徳恩が恋人の上田に丁寧体で話していること以外にも注目すべき点が幾つかある。まず、徳恩の「麺やソースをどこで仕入れたらいいのか」という発話が普通体でなされている点である。この発話は疑似独り言で、丁寧体基調の会話にあっても普通体で現れるものであるが、この教科書においてこうした普通体の用法への言及はない。次に、徳恩の「上田さんって、案外と策士なんですね」という発話と、それに続く上田の「あら、ずいぶん高級な日本語をご存じなのね」という発話に注目したい。「策士」という言葉は否定的な意味合いを有する言葉だが、徳恩は敢えてそれを使っている。彼は上田のアイディアを直接的に褒めるのは照れ臭いため、故意に否定的な意を含んだ言葉を選択することによって冗談めかしつつ自分の気持ちを伝えたのかもしれない。または、上田のアイディアを狡猾と感じたがそれをそのまま伝えると角が立つので「策士」という「狡猾」よりは印象の悪くない言葉を使ったのかもしれない。いずれにしても、徳恩の「策士」という言葉の使用の裏には何らかの意図が隠されているものと考えられる。徳恩の発話に対して上田は「あら、ずいぶん高級な日本語をご存じなのね」と返しているが、この「ご存じ」という尊敬語は徳恩に敬意を表すために用いられているとは考えにくい。この発話によって上田は、必要以上に丁寧に話すことで逆に嫌味を言っている、または、相手の冗談に同調して冗談を返していると推測される。彼女は徳恩の「策士」という、ここでは有標となる言葉遣いに呼応してこのような発話をしたものと想像できる。徳恩の「上田さんって、案外と策士なんですね」という発話と上田の「あら、ずいぶん高級な日本語をご存じなのね」という発話の裏にはこのような話者の意図の存在が指摘できるのだが、この教科書ではこうしたことには全く触れられていない。上田の「ずいぶん高級な日本語をご存じなのね」といった話し方が上記のように状況によっては皮肉に聞こえる場合もあるという事実は学習者に明示的に知らせておかなければならない。裏に含みを持たせたやり取りを提示したこの教科書の挑戦は多とするものであるが、その含みについて全く解説を行っていないことは、残念なことである。

22.『日本語むやみにまねしよう』は、日本語を初めて学ぶ人のための教科書だが、文字の学習を初めにすると文字に束縛され一文字一文字たどどしく読んでしまったり、発音が韓国語式になってしまったりするという考えから (p. 3)、文字の学習は後回しにし、まずは耳から学ぶことを推奨している点が注目される。この教科書のもう一つの特徴は、最初から普通体の会話と丁寧体の会話を提示している点である。こうすることで、いくら日本語を勉強しても

日本の映画やドラマを聞き取ることができないというよくある事態が解消できるという (p.3)。  
この教科書は、韓国で出版されている従来の教科書と異なり、普通体基調会話を最初からふんだんに取り入れている点で注目されるが、丁寧体の会話に対応させて普通体の会話を提示しているだけという感拭えず、普通体基調会話に特徴的な現象に関しても、「おっす／ちわっす」は男性用である (p.47) という説明以外の記述は見当たらない。

23. 『ニュー日本語バンクフリートーキング BASIC』は、初級文法を学んだが会話がうまくできない学習者を対象とした、コミュニケーション機能重視の会話入門教材である。普通体基調会話は全20課のうちの15～20課に主に登場する。それまで丁寧体基調だった登場人物の会話だが、15課から突然普通体基調に変わるが、なぜそうなったのかは不明である。普通体基調会話に関する情報の記述も、短縮形以外はない。また、以下のような説明には問題があるのではないと思われる (p.37)。

確認
上→下
V (基本形) +ね…強い
V (基本形) +か…弱い

この説明の横には次の会話が表示されている。

(11)

課長：プレゼンテーションの準備はうまくいってるか。

尹：はい、今やってるところです。

課長：どれ、配布資料は？

尹：はい。できてます。

課長：表紙はカラーだったね。

尹：はい。全部で、50部印刷でよろしいでしょうか。

終助詞「ね」に確認の用法があるのは確かだが、「か」は疑問や質問を表す終助詞であって基本的には確認を表すものではない。従って、「V (基本形) +ね」と「V (基本形) +か」は別々の文法事項として扱った方がよいと考えられる。基本的な文法機能が異なる両者を「強い・弱い」と相対的に比較することにも無理がある。実際、上記会話の課長の「表紙はカラーだったね」の語感強く、「プレゼンテーションの準備はうまくいってるか」の語感は弱いということはない。

### 3. 日韓の日本語教科書における普通体基調会話に見られる問題点

前節では、分析対象とした日韓の日本語教科書を普通体基調会話の取り扱いを中心に1冊ずつ検討した。本節では、これらの教科書に共通して観察される、普通体基調会話に関する問題点を指摘する。それらは「男女差・年齢差を表す表現に関する問題」と「文末スタイルの選択に関する問題」に大別できる。

#### 1) 男女差・年齢差を表す表現に関する問題

「男女差・年齢差を表す表現に関する問題」は更に以下の3つに分類できる。

- ① 男女差のある発話なのに、発話者の性別が記されていない（2, 3, 14, 19, 20：数字は(1)のリストの番号を指す。以下同様）。代表的な例を示す。

#### (12) 20.『初級日本語会話練習Ⅱ』 pp.142-143より（原文は分かち書き）

- A まあ、久しぶり。ずいぶん黒くなったわね。  
B ええ、海へ行ってきたの。少し泳げるようになったのよ。  
A あら、あなた泳げなかったの。  
B ええ、全然。あなたは夏休み何をしていたの。  
A 中国に行ってきたの。簡単な会話ぐらいなら話せるようになったのよ。

上の例のように「わね／のよ」といった終助詞や「まあ／あら」といった語彙の選択において男女差のある表現が使われているにも関わらずその話者の性別が不明である場合、学習者はそれが女性的表現とは知らないまま習得してしまう可能性がある。もし男性の学習者がこのような話し方をしたら、周囲に大きな違和感を与えてしまうだろう。そのような事態を避けるため、性差のある発話を採用した場合は必ず発話者の性別を示すべきである。また、この例のような話し方をするのは、現代では中年以上の女性である。若年層の女性の場合はどのような発話になるのかも示す必要があろう。

- ② 男性話者／女性話者がそれぞれ男女差のある表現を使用していても、その旨が記されていない（4, 6, 10, 14, 16, 21）。代表的な例を示す。

#### (13) 4.『聞いて覚える話し方 日本語生中継・中～上級編』別冊p.11より

弟：あ、兄貴。

兄：なんだ。

弟：明日車使う？

兄：別に。

弟：じゃ、車借りるよ。

兄：何でだよ。お前、自分の持ってんだろ。

弟：デートなんだって。

兄：お前のデートに、なんで俺が車貸さなきゃなんねんだよ。

(以下省略)

この兄弟の発話には「兄貴／なんだ／何でだよ／お前／持ってんだろ／俺／貸さなきゃなんねんだよ」といった男性的な表現が多用されているが、これらが男性的表現であることは明記されていない。この例は現代の若年層の男性のごく自然な会話を切り取っている点で評価できるが、性差のある表現への明示的な指摘がなければ、学習者がこうした例に含まれる男性的な表現に気づくことは難しいであろう。また、この会話を、女性ならどう話すか、中立的な話し方にしたらどうなるか、といったことも同時に示す配慮も必要だと考えられる。

- ③ ある表現が男性的か女性的か示されているものの、その表現はもう一方の性でも使用可能である／その表現には年齢差が認められる（1, 5, 7, 10, 12）。それぞれの代表的な例を示す。

- (14) 12.『ふれあい日本語①』p.70、ドリルの例題より

忘れる→実は忘れてしまったんです。すみません。

(男の人) 実は忘れちゃったんだ。

(女の人) 実は忘れちゃったの。

- (15) 5.『新装版なめらか日本語CDつき』p.57より

男子学生A「どこへ行くんだい？」

女子学生B「図書館。今日中に借りた本を返さなくちゃ。」

(以下省略)

(14)の「実は忘れちゃったんだ」では「～んだ」は男性的な表現とされているが、これは現代では男女共に使うことのできる表現である。(15)の「どこへ行くんだい？」に目を向けると、こ



れが男性的な表現であることは間違いないが、一般的に若年層に属する「学生」の発話であることに違和感を覚える人も多いのではないだろうか。「～んだい？」を使うのは現代では中年以上の男性に限られよう。こうした現状を教材に反映できなければ、「忘れちゃったんだ」と言う女性に対して学習者が、この人は男みtainな話し方をすると誤った認識を持ってしまうことも考えられる。また、学習者が「どこへ行くんだい？」を使えば周囲に年寄くさい印象を与えてしまうか、若しくは、本人にその意思がないにも関わらずふざけていると思われるであろう。

## 2) 文末スタイルの選択に関する問題

「文末スタイルの選択に関する問題」も3つに下位分類できる。

- ① 話者同士の関係が不明なため、ある話者がなぜその文末スタイルを用いるのか分からない (3, 5, 10, 20, 21)。

以下の例では会話の冒頭に、登場人物として裴徳恩、陳元太、市川知也の名前が挙げられている。このうち、「裴徳恩」は留学生であると別の所に明記されている (p. 4) が、残り2名に関しては何の説明もない。ただし、「陳元太」は、本例以前の会話から裴徳恩同様、留学生であることが分かっている。

### (16) 21. 『中級日本語会話』 pp.16-17より

場所          サークルルーム

登場人物   裴徳恩   陳元太   市川知也

徳恩   日本は物価が高いと聞いたんですが。

元太   うん、高いよ。だけど最近は韓国も高くなっているから、あまり感じないかもね。

市川   そう言えば、僕の姉もソウルに旅行で行ったんだけど、思ったより買い物できなかったって言ってたっけ。

徳恩   ところで、陳さんは何かアルバイトしているんですか。

元太   まあね。アルバイトって、ある意味で、一番いい日本経験だからね。

市川   確かに、それは言えてるね。

徳恩   僕も何かアルバイトをしたいんですけど、何かいいバイト、ありませんか。

元太   徳恩は何か特技持ってる。

徳恩   まずは日本語だけど、その他には、軍隊では撮影班に勤務したからカメラかな。

市川   カメラか。僕の先輩で韓国向けのPR誌やっている人がいるんだ。今度、アルバイトできないか聞いてみるよ。

徳恩 本当ですか。じゃ、よろしくお願いします。

この会話がサークルルームで交わされていること、また、登場人物3名の発話の文末が、徳恩は「カメラかな」という疑似独り言を除いて全て丁寧体、元太と市川は普通体であることから、元太と市川は徳恩のサークルの先輩であると、母語話者なら推測することができる。しかし、人間関係が文末スタイルの選択に影響を及ぼす現象に不慣れた学習者にとっては、文末スタイルから登場人物の関係を把握するのは難しいと考えられる。その結果、学習者は、ある話者がなぜその文末スタイルをとるのか理解できないことがあるのではないだろうか。

② 話者同士の関係は示されているが、基本的な文末スタイルに一貫性がなく、結局いつどのスタイルを使えばいいかわからない(1, 5, 9, 20)。

1. 『日本語会話中級Ⅰ』の「友だちどうし」の会話には、二人の会話参加者が共に普通体で話す場合(p.18, 49)と丁寧体で話す場合(p.137, 141)がある。これらはいずれも非公式な場面における会話である。現代の若者が友人と非公式な場面で話す際は通常普通体を使うことを考えると、あえて丁寧体を使用することに発話者の何らかの意図があると推測することもできるが、この教科書の例からはそのような意図は汲み取れない。このように話者の関係が固定しているにも関わらず基本的な文末スタイルの選択に揺れがあるのは不自然ではないだろうか。1. 『日本語会話中級Ⅰ』では更に、会社の同僚という関係にある2人の話者がとる基本的な文末スタイルが、共に普通体の場合(p.167)、共に丁寧体の場合(p.82, 164)、一方が普通体でもう一方が丁寧体の場合(p.114)と、3つのパターンで登場する。これらはいずれも非公式な場面における会話である。話者の上下関係を示す手掛かりが示されない中で、こうした文末スタイルの相違に意味を見出すことは難しい。

③ 一人の話者のひとまとまりの会話中に文末スタイルの混合が見られるが、その使用意図が分からない。

a. 丁寧体基調の中に現れる普通体(2, 4, 9, 11, 12, 14, 16, 18, 19, 20, 21, 23)

先に挙げた例(10)の「麺やソースをどこで仕入れたらいいのか」や(16)の「(特技は)カメラかな」のような疑似独り言、また、「わあ、イブニングドレスだ。素敵だな」のような現況描写、感情の吐露(21. 『中級日本語会話』 p.67)は、丁寧体基調の会話にあっても普通体で現れる。分析対象の教科書にはこれらの用法を用いた会話例が散見されるが、それに関する説明はされていない。

また、次の例のように、上記の用法とは異なる丁寧体基調会話中の普通体使用もある。

(17) 20.『初級日本語会話練習Ⅱ』p.144より（原文は分かち書き）

- A もしもし金太郎ずしです。  
B 二丁目の佐藤ですが、にぎりの上を五人前お願いします。  
A はい、毎度ありがとうございます。  
B 一つはわさびをつけないでください。  
A 一つはさび抜きね。はい、承知しました。

寿司屋の店員「A」は客の「B」に対して丁寧体を使って話す中で、「さび抜きね」だけは普通体を使っているが、なぜここだけ普通体が選択されているのかは疑問である。寿司屋「A」がこの発話によって客「B」に注文内容を確認していることから、これが疑似独り言や感情の吐露とは考えにくい。このままでは客に対して礼を失した発話と取られる可能性が高い。

b. 普通体基調の中に現れる丁寧体（4, 5, 9, 12, 23）

次の例のインタビューに答える「男性」は、普通体基調の話し方をしているが、最後の部分では「思ってたんですけどね」と丁寧体を用いている。話者が普通体基調の中で丁寧体を使用する背景には、場の改まりや心理的な付き放しなど、様々な話者の意図の存在があるが、この例からは、話者である「男性」の何らかの意図を読み取ることはできない。

(18) 4.『聞いて覚える話し方 日本語生中継・中～上級編』別冊p.31より

- インタビュアー：あ、すいません。ちょっと、よろしいでしょうか。  
男性：あ、あ、あ。  
インタビュアー：はい、すいません。最近、環境に対する意識が高まっていますが、あなたのお勤めの会社ではどんなことに取り組んでいらっしゃいますか。  
男性：あ、環境。難しいね。あの、そうね、一度ねえ、うちの会社、会社じゃねえ、あの、工場の近くの海岸のね、ごみ拾いしようかって案が出てたんだけど、社内では反対が多くって、結局ボツになっちゃったんだよね。私としては、地域みなさんに会社のことを知ってもらうのにいい機会なんじゃないかなと思ってたんですけどね。  
インタビュアー：ああ、なるほどね。

c. 丁寧体基調から普通体基調への切り替え（9, 18, 21）

分析対象の教科書に現れる「丁寧体基調から普通体基調への切り替え」はいずれも初対面の場面で観察される。普通体で話すことが可能な相手に対しても、初対面というフォーマリティ

の高い場面では丁寧体が選択されることも多いが、以下の例のように、2回目のターンから早々に普通体へ完全移行すると、突然相手に配慮しなくなったという印象が生じ、失礼になってしまうのではないだろうか。

(19) 18. 『KUJAPシリーズ日本語』 p.208より

パク こんにちは。初めまして。パクと申します。

林の兄 こんにちは。いらっしゃい。弟から話はよく聞いていますよ。

パク あ、娘さんですね。かわいくておとなしいお嬢さんですね。

林の兄 おとなしいなんてとんでもない。元気すぎるくらいだよ。今日も朝6時に起こされたんだ。それからさっきラジオも壊されちゃったよ。

パク そうですか。

(以下省略)

この会話には、内容に関する問題もある。まず、パクが林の兄の娘を見て「かわいくておとなしいお嬢さんですね」と言っているが、その女の子がおとなしいかどうかは今初めてその子を見たパクには分からないはずである。また、林の兄が娘について「元気すぎるくらいだよ。今日も朝6時に起こされたんだ。それからさっきラジオも壊されちゃったよ」と言ったことに對してパクはただ「そうですか」と返事をしているが、ここで相手の発言を素直に受け止めることは、相手の娘の否定的な面を認めることになるため問題がある。この場合は、「子どもはそのくらい元気な方がいいですよ」と反論したり、「えー！そんなに元気なんですか」と驚いてみせたりするのが適切な応答となろう。

#### 4. おわりに

本稿では、普通体基調会話の扱いを把握することを目的として、日本で出版された10冊の日本語教科書と韓国で出版された19冊の日本語教科書を分析した。韓国で出版されたものについては、会話教育を重視している教科書を19冊入手したが、そのうち9冊が普通体基調会話に関する事項を全く取り上げていなかった。そのため、普通体基調会話に関して実際に分析を実施した韓国の教科書は10冊であった。

分析の結果、日本の教科書は7冊に普通体基調会話が多く提示されていることが分かった。一方、韓国の教科書で普通体基調会話の提示が多いのは4冊であった。両国で出版されている全ての教科書を分析したわけではないが、概して韓国の教科書では普通体基調会話があまり扱

われない傾向にあると言えよう。

日本の教科書にも韓国の教科書にも、普通体基調会話は提示されているが、それに関する説明があまりない、または皆無であったり、説明に不自然な点や不足な点があったりするものが多いことも明らかになった。現行の教科書を見る限り、普通体基調会話は断片的に扱われているに過ぎず、体系的には提示されていないことが指摘できる。

普通体基調会話は、親しい間柄で交わされることが多いとはいえ、常にざくばらんに行われているわけではなく、様々な配慮に基づいてなされている。そうした配慮を欠いた場合、人間関係が悪化する恐れもある。普通体基調会話の使用を希望する学習者には、今より明示的かつ体系的にその方法を示す必要があろう。

#### 注

- 1 本稿は博士論文（九州大学、2012年）の一部を加筆・修正したものである。
- 2 挿絵を見ても男性か女性か判断しかねるものもある。

#### 参考文献

- 石川朋子 2012 「くだけた会話の教育方法開発のための基礎研究—若年層の韓国人日本語学習者を対象として—」（博士論文）九州大学大学院比較社会文化学府
- 伊藤恵美子 2001 「マレーシア政府派遣留学生の対人コミュニケーション障害：言語行動を面接から分析して」『異文化コミュニケーション研究』4、57-70
- 櫻坂英子編著 2007 『韓国における日本語教育』三元社
- 王龍 2008 「若い男性の話し方の特徴—九州大学農学部の一研究室の場合—」『東アジア言語文化研究』第9集、99-117
- 小川早百合 2006 「話しことばの終助詞の男女差の実際と意識—日本語教育での活用に向けて—」日本語ジェンダー学会編『日本語とジェンダー』ひつじ書房、39-51
- 尾崎明人 2003 「接触会話の研究から会話教育へ—電話会話の終結部に見られるコミュニケーション問題を中心に—」宮崎里司、ヘレン・マリOTT編『接触場面と日本語教育—ネウストブニーのインパクト』明治書院、69-84
- 梶原綾乃 2003 「留学生と日本人学生の交流促進を目的としたコミュニケーション教育の実践」『日本語教育』117号、93-102
- 韓国語ジャーナル編集部 2007 『韓国語学習Q&A』アルク
- 金水敏 2010 「「男ことば」の歴史—「おれ」「ぼく」を中心に」中村桃子編『ジェンダーで学ぶ言語学』世界思想社、35-49

## 日韓の日本語教科書における普通体基調会話の扱い

- 小矢野哲夫 2007 「若者ことばと日本語教育」『日本語教育』134号、38-47
- 因京子・王龍 2007 「日本語教材の普通体会話の提示と会話実例の質的分析―若い男性話者による会話を中心に―」『東アジア言語文化研究』第8集、139-166
- 因京子 2010 「マンガージェンダー表現の多様な意味」中村桃子編『ジェンダーで学ぶ言語学』世界思想社、73-88
- 長友英子・荻野優子 2005 『文法をしっかりと学ぶ韓国語』池田書店
- 日本語教材リスト編集委員会 2013 「日本語教材リストNO.42 PDFダウンロード版」<http://www.bonjinsha.com/list/pdf/gjltm42.pdf> 凡人社
- 松村瑞子 2010 「聞き手志向の日本語ポライトネス―日本語における配慮表現とポライトネス―」『東アジア日本語日本文化研究』第11集、63-85
- 吉岡英幸編著 2008 『徹底ガイド日本語教材 教材から日本語教育が見える!!』凡人社
- 米川明彦・吉岡泰夫・永瀬治郎・窪園晴夫・井上逸兵・大坊郁夫・稲垣吉彦・秋月高太郎・羽田卓生 2006 「特集 若者ことば大研究 変容するコミュニケーション環境の中で」『言語』35(6)、20-78

## 本稿の分析対象教科書

日本で出版された教科書（出版年順）：

- 高柳和子・遠藤裕子・袴田陽子 1993 『日本語会話中級Ⅰ』TIJ東京日本語研修所／山内博之 2000 『ロールプレイで学ぶ 中級から上級への日本語会話』アルク／三枝令子・中西久美子 2003 『日本語文法演習 話し手の気持ちを表す表現―モダリティ・終助詞―』スリーエーネットワーク／梶本総子・宮谷敦美 2004 『聞いて覚える話し方 日本語生中継・中～上級編』くろしお出版／富坂容子 2005 『新装版なめらか日本語CDつき』アルク／荻原稚佳子・増田眞佐子・齊藤眞理子・伊藤とく美 2005 『日本語上級話者への道 きちんと伝える技術と表現』スリーエーネットワーク／姫野昌子・村田年・伊藤祐郎・藤森弘子 2005 『日本語中級からのスキルバランス ワークブック』凡人社／荻原稚佳子・齊藤眞理子・伊藤とく美 2007 『日本語超級話者へのかけはし きちんと伝える技術と表現』スリーエーネットワーク／Miura, A. and Hanaoka McGloin, N. 2008 *AN INTEGRATED APPROACH TO INTERMEDIATE JAPANESE (Revised Edition)* Tokyo: The Japan Times.／岩田夏穂・初鹿野阿れ 2012 『にほんご会話上手！聞き上手・話し上手になるコミュニケーションのコツ15』ask

韓国で出版された教科書（出版年順）：

- 高麗大學校日語日文學科教授室編 1998 『日本語会話』高麗大學校出版部／李徳奉・甲斐沢とし子・奥山洋子・森山新 2000 『ふれあい日本語①』時事日本語社／金玉英 2001 『日本語よ 遊ぼう!』J&C／李徳奉・甲斐沢とし子・奥山洋子・森山新 2001 『ふれあい日本語②』時事日本語社／李徳奉・森山新・奥山洋子・甲斐沢とし子 2002 『ふれあい日本語③体験日本語 “ここは日本”』時事日本語社／韓国外国語大学日本語科

石 川 朋 子

2003 『初級現代日本語』 韓国外国語大学出版部／朴舜愛 2004 『日本語バンク日本語会話入門』 日本語バンク／高麗大學校日語日文學科教材編纂委員会 2005 『KUJAPシリーズ日本語』 高麗大學校出版部／誠信女子大學校日本語教材編集委員会 2007 『初級日本語会話練習Ⅰ』 誠信女子大學校出版部／誠信女子大學校日本語教材編集委員会 2007 『初級日本語会話練習Ⅱ』 誠信女子大學校出版部／韓国外国語大学日本語科 2007 『中級日本語会話』 韓国外国語大学出版部／藤井麻里 2008 『日本語むやみにまねしよう』 길벗 이시록／関陽子・南昌妊 2008 『ニュー日本語バンクフリートーキングBASIC』 日本語バンク／朴舜愛・岡俊光・小峰理奈 2008 『ニュー日本語バンクフリートーキングSTYLE 1』 日本語バンク／朴舜愛・岡俊光・小峰理奈 2008 『ニュー日本語バンクフリートーキングSTYLE 2』 日本語バンク／朴舜愛 2008 『ニューバンク日本語STEP 2』 日本語バンク／朴舜愛・岡俊光・小峰理奈 2009 『ニューバンク日本語初級1』 日本語バンク／朴舜愛・岡俊光・小峰理奈 2009 『ニューバンク日本語中級1』 日本語バンク／朴舜愛・岡俊光・小峰理奈 2009 『ニューバンク日本語中級2』 日本語バンク